

魅力あふれる阿賀川を目指して、 河川整備計画づくりを進めています！

阿賀川河川事務所では、『洪水による災害の防止又は軽減(治水)』、『河川の適正な利用と流水の正常な機能の維持(利水)』、『河川環境の整備と保全(環境)』といった3つの基本的な目標と、それを支える『河川の維持管理』の達成を目指し、「阿賀野川水系河川整備計画」の計画づくりを進めています。



計画対象区間:大臣管理区間の51.95km

河川名	区間		
	上流端	下流端	延長(km)
阿賀川	馬越頭首工	山都	31.6km
日橋川	堂島橋	阿賀川合流点	6.6km
湯川	上流	阿賀川合流点	2.2km
大川ダム	-	-	11.55km
合計			51.95km

阿賀野川水系流域図



計画の対象期間:概ね30年間

河川法第16条の2第4項(関係住民の意見を反映させるために必要な措置)に基づくアンケートです。

**阿賀野川水系【阿賀川】河川整備計画(骨子)について
皆さんのご意見をお聞かせください。**

本誌では、「阿賀野川水系【阿賀川】河川整備計画」の骨子についてご説明します。本誌を参考に、アンケート(はがき)にご協力をお願いします。詳細につきましては、下記担当までご連絡ください。

担当:阿賀川河川事務所工務課

〒965-8567 福島県会津若松市表町2-70

TEL: 0242-26-6441 FAX: 0242-29-2777

<http://www.hrr.mlit.go.jp/agagawa/agagawa/agagawa.html>

ご意見応募方法

アンケートはがきでお送りください。

ご意見募集期間

平成21年9月30日(水)必着

洪水による災害の防止又は軽減(治水)

治水に関する現状と課題

■ 下流狭窄部の存在

阿賀川は、会津盆地を貫流した後、喜多方市山崎地先で山間狭窄部に入ります。そのため、会津盆地では古来からたびたび洪水が繰り返されてきました。大正10年からの本格的な改修によって、下流の蛇行部に3本の捷水路(ショートカット)を開削しましたが、大量の未掘削部を残したままの暫定通水でした。昭和57年の大洪水を契機に、下流狭窄部改修事業が再開され、現在までに泡の巻地区、津尻地区の工事が完成していますが、最下流の長井地区は未だ狭窄部となっています。



■ 湯川洗堰

会津若松市を流れる湯川の洗堰は、堰地点での河積が小さいため、洪水時には水位がせき上がり、上流で支障となる恐れがあります。



H14洪水時の状況(洗堰上流)



■ '偏流'を発生させる樹木群

河道内に繁茂した樹木は、洪水時に流れを蛇行させ、水衝部を発生させ、高水敷の侵食や洗掘被害を発生させます。また、樹木群の繁茂は、洪水時に大量の流木により、橋脚等の閉塞を発生させます。



流木による橋脚の閉塞



洗掘被害の発生状況



流れを阻害する樹木群

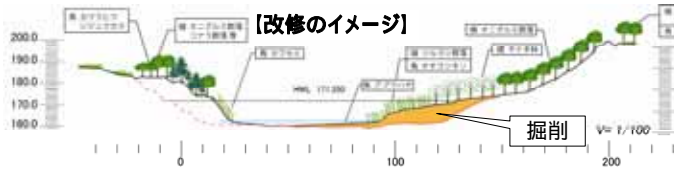
■ '高さや幅が不足している'堤防の存在 / 堤防の浸透・漏水

阿賀川では、洪水の越流を防ぐ堤防のうち、高さや幅の不足している区間が存在します。堤防の多くは昭和初期に築造され、旧川跡の上に作られたものや、河床材料を使って盛土しています。そのため、既設堤防の一部では、堤防を通る浸透水や基盤漏水によって、土砂が流出したり、堤防裏の法面が破壊され、被災につながる危険性があります。

治水対策の具体的内容

■ 下流狭窄部改修(長井地区)

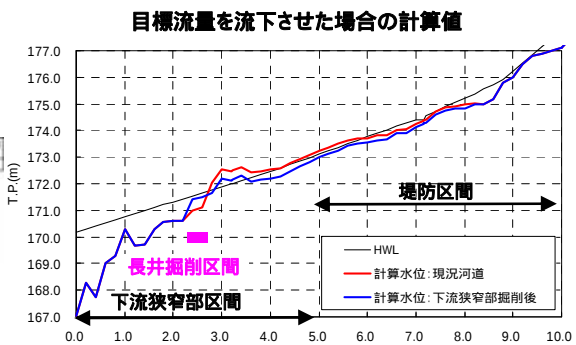
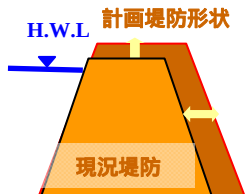
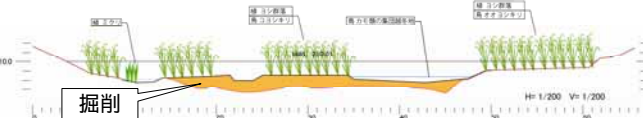
下流狭窄部(長井地区)改修を進め、上流の水位を低下させます。



■ 湯川洗堰改築

洗堰の改築を行うとともに、上流区間の河道掘削を行い、水位を低下させます。

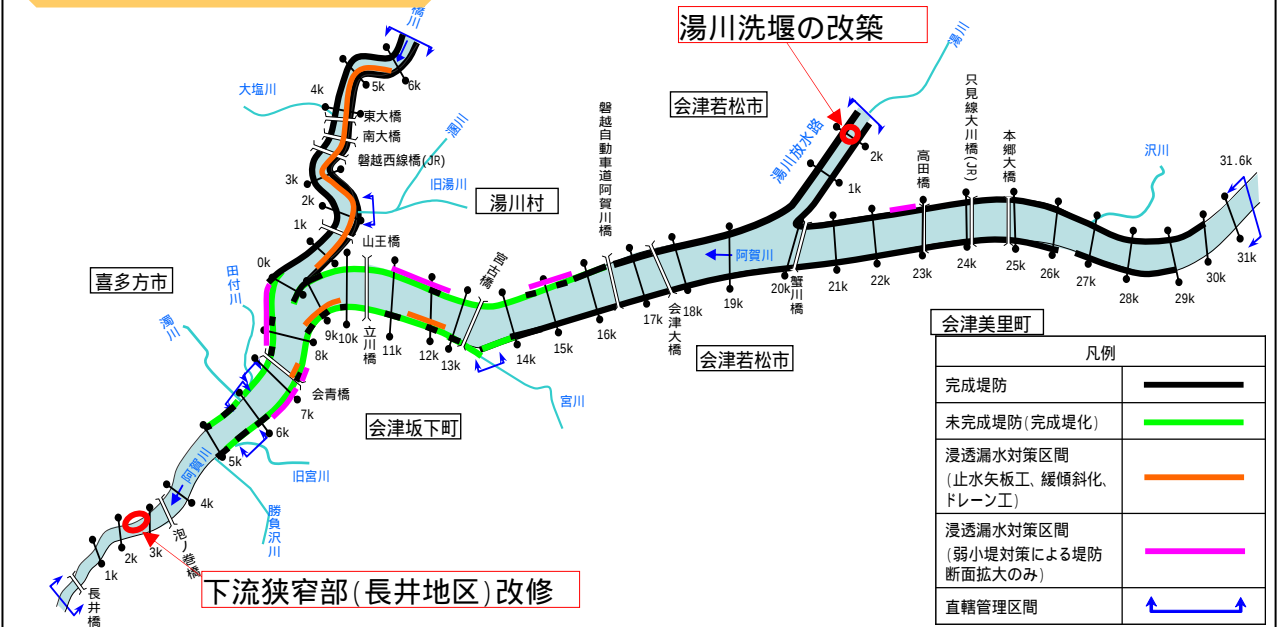
【河道掘削のイメージ】



■ 堤防の完成化

安全性の確保されていない堤防(未完成堤防)に対して完成化を目指すとともに、浸透に対する対策を進めます。

河川整備の実施箇所



「減災」への取り組み

万が一の洪水に備えて、水防活動・災害復旧活動の中心となる防災拠点の整備を行います。また、被災を最小限に防ぐため、光ファイバーケーブルを用いた防災情報の提供、ハザードマップの作成支援等を行っています。

- 防災拠点の整備
- 防災情報の高度化・提供
- 洪水ハザードマップ作成支援
- 水防活動支援の継続



防災ステーション予定箇所



CCTVによる情報の提供



ハザードマップの作成支援水防活動支援（夜間水防訓練）

大川ダム

大川ダムは、阿賀野川総合開発事業の一環として建設された多目的ダムです。



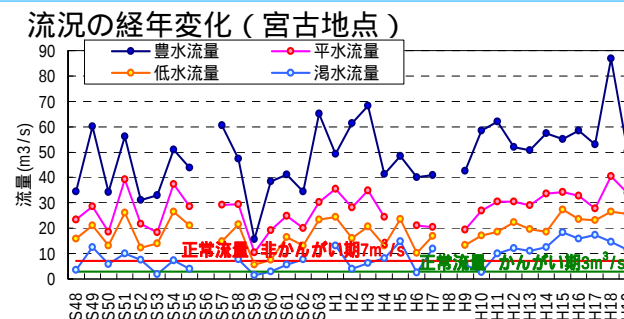
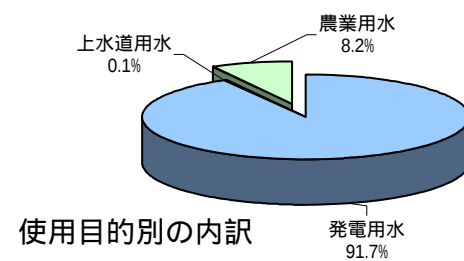
用途	目的
洪水調節	ダム地点の計画高水流量3,400m ³ /sのうち800m ³ /sの洪水調節を行う。
流水の正常な機能の維持	阿賀野川上流部の既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進を図る
かんがい	阿賀川沿岸の約4,400haの農地に對し、代かき期の最大で19.7m ³ /sのかんがい補給を行う
水道用水	会津若松市他2町に對して27,500m ³ /日の水道用水を補給する。
工業用水	会津若松地区に對し、72,500m ³ /日の工業用水を供給する
揚水発電	大川ダムを下池、上流の支川・小野川に建設した大内ダムを上池として、その間の落差約400mにより最大100万kWの発電を行う
ダム式発電	大川ダム下流右岸に設置したダム式発電所において最大2万1千kWの発電を行う

河川の適正な利用と流水の正常な機能の維持(利水)

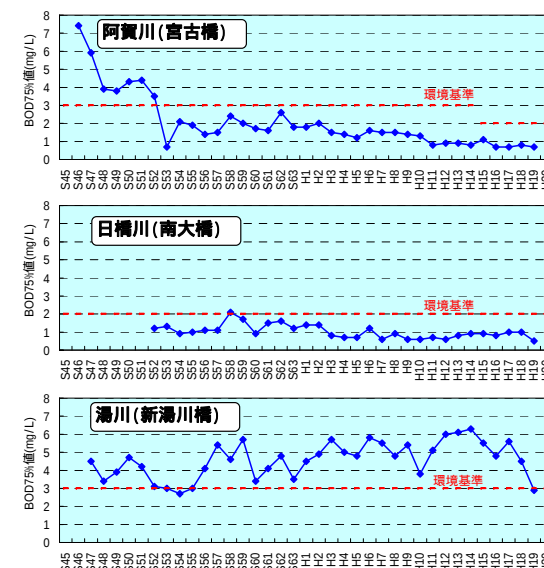
利水に関する現状と課題

■ 渇水被害の頻発

阿賀川の水は、かんがい用水や生活用水、発電用水に利用されています。一方、渇水が頻発しており、平成6年に発生した渇水では、水量が減少し、水温が上昇したり、瀬切れの発生によってハヤの産卵場の多くが失われる被害が起きています。



H6年の渇水状況



■ 水質の状況

阿賀川本川と日橋川の水質は、現在、環境基準値を満足し良好な状態にあります。一方、湯川では恒常的に環境基準を上回る状態となっています。

■ 流況等のモニタリング

(河川環境保全のために必要な流量の調査検討等)

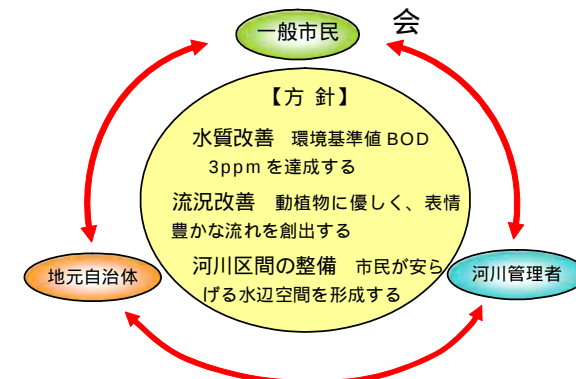
継続的な流量観測を行うとともに、阿賀川の多様な動植物の生育・生息環境を維持するために必要な流量について検討を行います。

■ 湯川等における水質改善

湯川の水質改善を目指し、平成11年度より『水環境整備事業』として、汚泥浚渫、浄化施設整備、阿賀川からの浄化用水導入等を行ってきました。今後は、住民・自治体・河川管理者が一体となった事業展開を行っていきます。

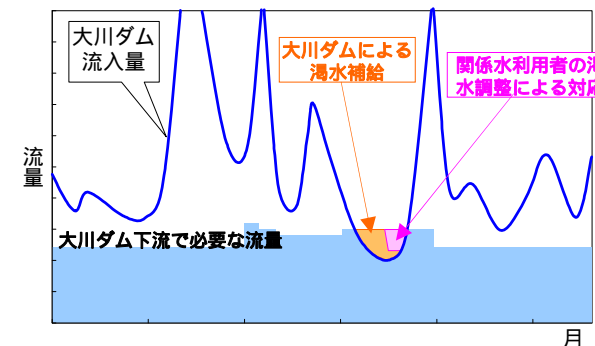


湯川の水環境を考える市民の会



■ 渇水調整及び渇水補給

渇水が発生した場合は、広域的・合理的な水利用を図るため、関係機関および水利用者と調整を行います。また、大川ダムの運用方法を見直し、渇水時の補給能力の強化を図ります。



大川ダムによる渇水補給イメージ

平常時には・・・

- 水質調査の継続実施
- 水質事故時の対応



河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持(環境)

環境に関する現状と課題

■『阿賀川らしい』河川環境

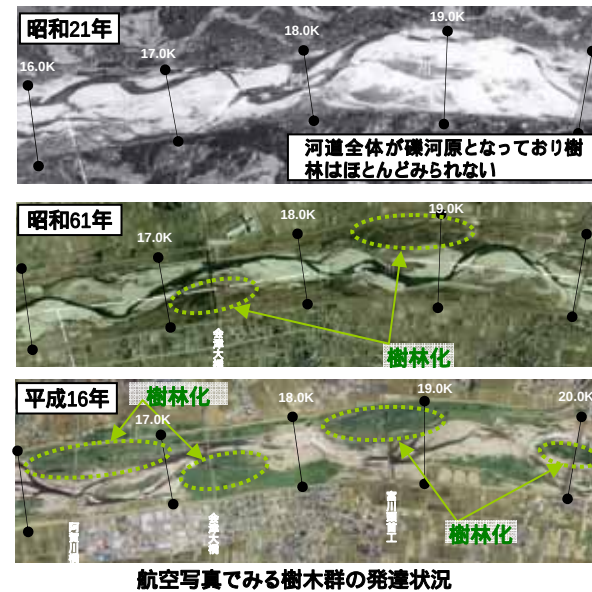
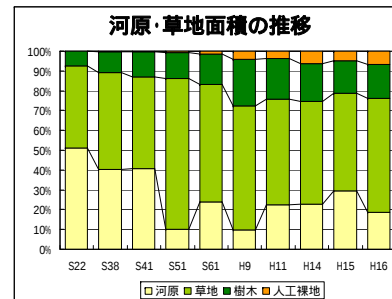
会津若松市を流れる阿賀川は、500～600mの川幅で網目状に流れています。洪水のたびにみお筋が変化することから、礫河原を形成し、カワラニガナやカワラバッタ等、貴重な動植物が生育・生息しています。川底の浮石の多い瀬でカジカが産卵し、水の湧き出ているワンドや細流には、陸封型のイトヨが生息しています。



■ 樹林化の進行と礫河原の減少

近年では、洪水ピーク流量の減少や高水敷の冠水頻度の低下によって、河道内の攪乱が減少し高水敷には大きな樹林が形成され、『阿賀川らしい』礫河原は減少しています。

さらに樹林の形成は洪水時の流下能力減少や偏流の発生につながり、治水上の課題にもなっています。



阿賀川の樹木管理

阿賀川における「治水」、「環境」、「阿賀川らしさ」の観点からなる「阿賀川の望ましい姿」を目指して、樹木群の現状や将来的な変化、樹木群による効果と課題を踏まえて、バランスのとれた適切な樹木管理を行っています。

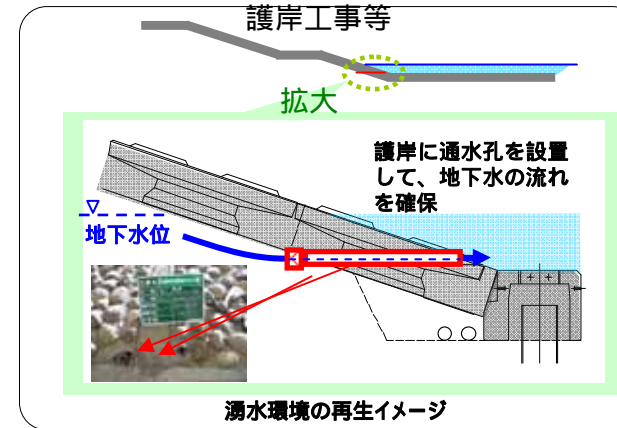
また、伐採により発生した樹木は、希望者への無償配布、木炭を作り河川浄化に利用するなど、効果的な利活用を図るように努めます。



環境に関する具体的内容

■ 多自然川づくりの実施

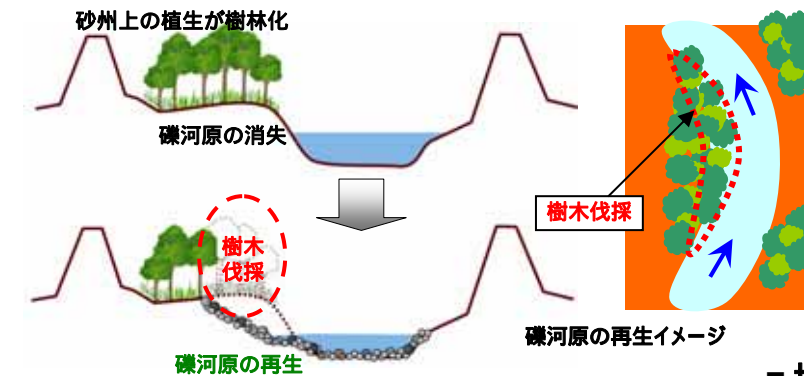
礫河原、瀬や淵、細流、湧水等の阿賀川らしい自然環境を保全・創出する、『多自然川づくり』を行っています。



■ 自然再生事業の推進

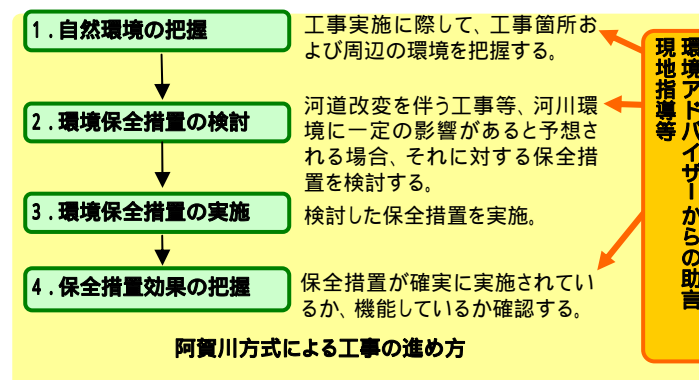
かつて阿賀川の象徴的な魚類であった『アユ』、希少種である『ウケクチウグイ』が数多く生息していた魚類生息環境の保全・再生を目指します。

また、礫河原特有のカワラニガナ、カワラバッタ等の生息環境を保全・再生を目指します。



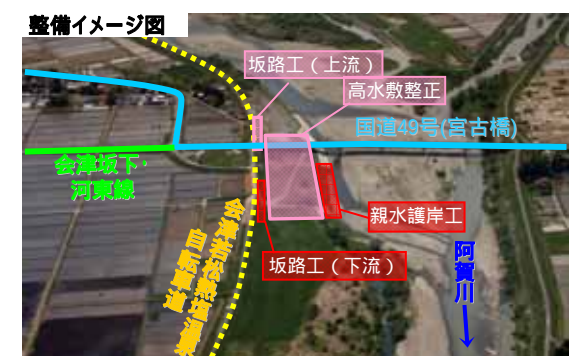
■ 工事による環境への影響軽減

工事を実施する場合は、環境アドバイザーの助言・指導のもと、事前の環境調査に基づく保全措置を検討実施します。また、事後調査を行い保全措置の効果を把握します。



■ 地域の文化・歴史と一体となった川づくり

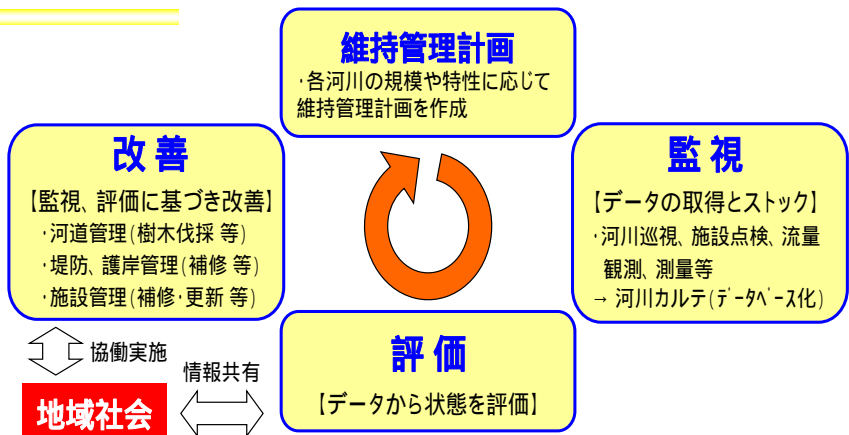
「人の駅、川の駅、道の駅」拠点整備の構想がある宮古橋周辺では、地元のニーズを把握しつつ、「かわまちづくり支援事業」により、地域と連携した整備を進めていきます。



河川の維持管理

維持管理の基本的な方針

阿賀川の河川特性を十分に踏まえ、河川の状態変化の監視、状態の評価、評価結果に基づく改善を一連のサイクルとした『サイクル型維持管理』により効率的・効果的な維持管理を実施します。



サイクル型維持管理のイメージ

維持管理に関する具体的内容

■ 河川の巡視・点検

洪水時に河川管理施設がその機能を発揮するためには、日常的な監視が必要です。

■ 河道の維持管理

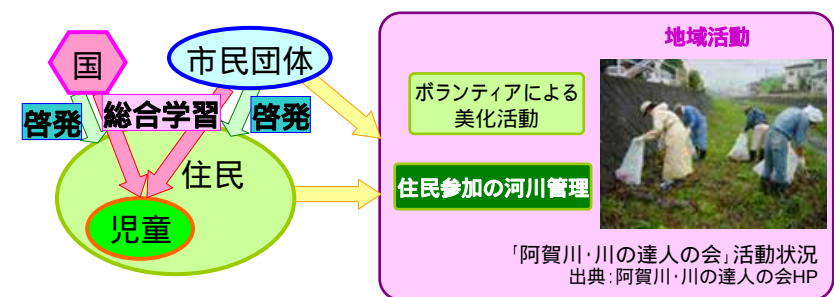
河道の変動、河岸侵食、護岸、樹木群の変化を早期に把握し、必要に応じて効率的に対策を講じます。



平常時の河川巡視の状況

■ 地域と連携・協働する河川管理

河川に係わる活動を展開している市民団体、非営利機関(NPO)、地域住民及び市民ボランティアの方々の協力を得て河川管理を行い、参加と連携による河川管理を基軸とした活力ある地域づくりを推進していきます。
また、阿賀川が身近な環境教育の場として活用されるよう、総合学習等の支援を行い、子供達の意欲的な学習をサポートしていきます。



総合学習: 出前講座による活動状況